

様式第2号

行政視察報告書

令和4年11月30日

大山町議会議長 様

経済建設常任委員会  
委員長 大杖 正彦  
(公印省略)

行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告致します。

記

1 視察年月日 令和4年11月16日(水)～11月17日(木) (1泊2日)

2 視察先 今治市・モンベルアウトドアオアシス石鎚店・  
高知観光情報発信館とさてらす・  
徳島阿波踊り空港交流施設 SORAPA・板野町

3 視察目的

- ①今治市：地産地消・食と農のまちづくり条例について 他
- ②モンベルアウトドアオアシス石鎚店：複合施設見学と各施設利用実績について
- ③高知観光情報発信館とさてらす：楽しめる観光案内所の在り方について
- ④徳島阿波踊り空港交流施設 SORAPA：レンタサイクルについて
- ⑤板野町：次世代エネルギーを備える道の駅の経緯について

4 行程実績

日次	月 日	行 程
1	11月 16日 (水)	《行政視察①》 大山町====今治市====(昼食)====モンベルアウトドアオアシス石鎚店====高知観光情報発信館==== 6:00 10:00着/ 12:00(発) 13:30着 / 14:30(発) 16:00着/ 17:30(発) =高知(泊) 17:40 着
2	11月 17日 (木)	《行政視察④》 高知市(泊)====徳島阿波踊り空港(昼食も兼ねる)====道の駅 いたの====大山町 8:30 10:55 / 12:55(発) 《13:30~15:30》 19:55

5 計画変更の有無

有 (無)

6 参加者氏名

大杖正彦(委員長)、豊 哲也(副委員長)、池田幸恵、大原広巳、杉谷洋一

7 随行者氏名

関 真弓(事務局)

## ①今治市

### 地産地消・食と農のまちづくり条例について 食育について

#### 8 視察先の概要

概要 面積：419.7 km<sup>2</sup>

人口：15万8,114人

世帯数：7万5,947世帯

基幹産業：今治タオルが有名、縫製、製塩、造船などが地場産業、近年はしまなみ海道の開通で中四国の交流・流通の拠点となった。

「地産地消と食育のすすめ」に関して学校給食課、「食と農のまちづくり条例」に関して農林水産課に話を伺った。民間団体、地元農協、市長、議員それぞれが食の安全に関して、学校給食、有機作物の栽培に約30年前から問題意識を持ち、様々な切り口で改善していた。

#### 取り組みの経緯

1981年ごろ民間団体の声上がり、自校式（給食センターでない）学校給食へ

1988年 議員発議により「食料の安全性と安定供給体制を確立する都市宣言」議決

1998年 市長により 学校給食へ 特別栽培米、地元産小麦の導入

2005年 議員発議により「食料の安全性と安定供給体制を確立する都市宣言」

それを実質的なものにするために

「今治市食と農のまちづくり条例」

（遺伝子組換え作物を許可制にして、実質一件も許可が下りていない）

これらの取り組みにより以下の成果が上がっている。

- ・ 遺伝子組み換え作物は今治市ではほぼ作られない。
- ・ 子供たちにオーガニック給食を提供できている。
- ・ 有機野菜への食育ができている。
- ・ 有機野菜などを作りやすい環境が整っている。  
（特に大三島では移住者が自然栽培などしている）
- ・ 学校のパンに地元小麦が100%使われ、新しい仕事も生まれている。

- ・「日本一おいしい給食プロジェクト」などブランディングができています。
- ・学校給食を通じて地元へのアイデンティティを育てている。

#### 今後の課題として

- ・自然栽培などの指導者がいない（440万円以上の所得がないと認定できない）
- ・ゲノム編集に関しては盛り込めていないなどがある。

## 9 視察の成果

民間団体・農協・市長・議員の連携により、2回、市としての宣言を行い、条例制定した結果、多くの成果をあげたポイントや経緯を伺うことができた。カテゴリを問わず、全国に共通する問題点を条例制定等で解決する事例を確認することで、地方自治の可能性を実感することができた。

今治市の取り組みは非常に先進的で優れたものだが、有機栽培、オーガニック給食を進めるうえで、本町でも以下の三点が優位だと思われる。進め方によっては今治市を越える施策が実現できるのではと感じた。

- ・耕作面積が広い 今治市約2400ha 大山町約4000ha
- ・自然栽培・有機栽培で先進的な取り組みをされている事業者がいる
- ・既に学校給食無償化を実現できている

## ②モンベルアウトドアオアシス石鎚

### 高速道サービスエリア内のアウトドア複合施設

#### 8 視察概要

四国のまんなか石鎚エリアでアクティビティを楽しむ拠点となっている当施設は、旧サービスエリアを改修してつくられたものである。交通の便が良く、観光だけでなく研修会などた利用客がある。ボルダリングとクライミングの初級から学べる施設でのイベントも毎日開催されている。

その他、カヌーやキャンプ用品などアウトドアグッズも、中四国で最大の売り場面積を誇る。また地元産品の直売所や温泉施設などが集約している。駐車場には子供の遊具広場もあり、ほぼ完成した施設である。

#### 9 視察の成果

しまなみ海道とのサイクルロード連携は検討中とのこと。キャンプの需要拡大も期待されている。

本町は集約こそされていないが、どの分野も町内にある。それぞれの観光拠点のさらなる魅力度アップが必要であると感じた。

また、海の拠点整備やレンタサイクルなど、現在計画推進中の事業の今後の検討事項の参考になる。

### ③高知市観光情報館『とさてらす』

#### 「楽しめる観光案内所の在り方」について

#### 8 視察先の概要

概要 面積：309.0 km<sup>2</sup>  
人口：32万 1,394人  
世帯数：15万 4,621世帯

(公財)高知県観光コンベンション協会 とさてらす営業所が指定管理者として運営。高知市内というより県庁所在地であり、JR高知駅前の観光案内所として全県エリアを対象とした取組みを展開している。

その中で特徴として、龍馬パスポート(県内各地の周遊・宿泊・グルメ・土産物・アクティビティーなどで特典が得られる)を展開。

特徴的なツアー紹介として、

ア) 県内エリア別(7カ所)に観光スポットを紹介(季節的に特徴ある地域を案内)。

イ) よさこい祭り他、シーサイド裸足マラソンなどイベントの開催。

ウ) スタンプラリーでステージアップ(5段階有り殿堂入りすると駅前案内所に名札掲示)リピート客の確保に力を入れている。

エ) その他、観光案内所に土産物販売・イベント広場・坂本龍馬、中岡慎太郎、武市半平太像を併設し、訪れた観光客を飽きさせない、滞在時間を延長してもらう工夫が見られた。

#### 9 視察の成果

高知市の観光案内所は、高知県全域を対象とした内容で取り組んでおり、大山町エリアの観光案内所と比べるとスケールや対象内容が異なるようだ。

その中で、観光客のもてなし、特に龍馬パスポートの展開は、イベントなどへの参加を積極的に案内し、滞在時間(期間)の延長や固定客(リピート人口)増加や宿泊増・飲食、土産物購入増へ結びつくアイデアとして注目される。

高知市は観光客がNHK大河ドラマ「龍馬伝」の人気から大幅に増加、観光客の満足度を高める施設は充実しており、龍馬パスポートなどで滞在エリアを全県に広げ、リピート客の確保と増加に力を入れており、この点は本町の観光施策に大いに参考となると思われる。

## ④徳島県阿波踊り空港『SORAPA』

### レンタサイクル事業

#### 8 視察先の概要

「Yeti&Ltb レンタサイクル徳島」は2020年8月オープン。  
四国4県で唯一空港にサイクルステーションがなかったことが始まり。  
インバウンド効果を期待して、日本在住外国人をモニターに計画をしていたのでコロナの影響は大きかった。

普及対策として、お客様の希望場所まで自転車のデリバー・回収サービスを行っており地元住民の利用も多くある。

特に目を引いたのが、レンタルサイクルのラインアップ数で、視聴覚障害者の方も乗車ができるタンデムバイクがあることである。

四国では、視聴覚団体が関わり先進的にタンデムバイクが公道でも利用できるよう条例改正がされている。

地域の連携としては、近隣の道の駅や徳島大学に貸し出しをしており、今後は商工会と連携し、淡路島コースに加え周遊コースを作ろうとしている。

#### 9 視察の成果

レンタサイクル事業を行うにあたってレンタサイクルには、多種多様性がありe-バイクだけにスポットを当てたとしても利用者目線のレンタサイクルバイクのサイズや車種などの大切さや安全性・必要性を再確認した。

利用促進のためには、地元との連携だけではなく同時に利用される人のための道路整備や案内など行政との係わり方も重要である。

## ⑤ 徳島県板野町

### 次世代エネルギーを備える「道の駅いたの」展開の経緯

#### 8 視察概要

##### 概要

面積：36.22 km<sup>2</sup>

人口：1万2,755人

世帯数：5,054世帯

総合計画をもとに次世代エネルギー拠点・防災拠点を併設した道の駅事例を視察した。道の駅「いたの」は施設面積41,908m<sup>2</sup>で「内閣府」の地方創生拠点整備交付金事業などを充当し、高松自動車道板野ICに近くに設置され、令和3年4月1日にオープンした。また、徳島自動車道へのアクセス道路も整備され、近い将来に発生が危惧されている南海トラフ巨大地震など、大規模な災害発生に備え、「板野町防災ステーション(延床面積624m<sup>2</sup>)」を併設し、備蓄倉庫には食料品や資材を収納している。避難所や物資輸送拠点や災害支援物資の受け入れ基地として活用できる貯水槽などを備え、災害時の防災拠点として利用される。

災害発生時には、離着陸可能な「ハリポート」なども整備されている。

ハリポートの通常の活用は、ドクターヘリの発着場として利用されているが、大規模災害時には近隣市町の後方支援として、空路による支援救助や支援物資輸送を行う。

ハリポート横の広場は、消防の訓練やイベントなどの行事や臨時駐車場として利用され、災害時には防災拠点の資材置き場として活用される。

また、防災ステーションは、近隣住民等の集会所として利用され、アマチュア無線通信室や次世代エネルギーを備えた未来志向型の道の駅としての「移動式水素ステーション」を備えた、災害時の防災拠点としての整備もされている。水素自動車は脱炭素社会の実現に不可欠であり、将来技術開発普及が期待されているが、住民の意識度は低いようだ。

さらに、道の駅「いたの」は、六次産業により板野町産の人参を有効活用し、他地域産との差別化が図られ、新鮮な安い野菜やお土産品など地域特産物の直売所

やレストラン、軽食コーナー、足湯、ドッグラン、レンタルサイクル、EV急速充電器、高速バス停留所などを設置し、四国観光のゲートウェイとしての機能が整備されている。

## 9 視察の成果

板野町では、平成26年12月頃から地方創生拠点整備が取り組まれ、計画が実現するまでにはさまざまな課題を解決し、大規模災害も視野に入れ、将来を見据えた「道の駅」が整備されている。

本町も淀江インターの残地の利活用で整備計画の審議会が設置されているが、長期ビジョンの総合戦略を策定し、米子市と連携をとりながら、国や県のを借り、国土強靱化地域計画に位置付けた道の駅や観光拠点と、併せて風水害や地震などに強い防災拠点を構築することが重要である。

そして、地域経済を発展させ、住民の福祉や防災拠点整備を充実し、誰もが安心して生き活きと暮らすことができる町を目指すべきと、この研修で学んだ。